



Letter

2003.4.28 VOL.4

CODE(海外災害援助市民センター)発行
〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL : 078-578-7744 FAX : 078-576-3693
e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>
郵便振替 : 00930-0-330579

今年度から毎月発行する予定です。お楽しみに！

二度とない人生なのに・・・

二度とない人生だから・・・

副代表 山口 徹

1944年（昭和19年）満州・大連に生まれた私が中国残留孤児として現存していても何の不思議もない。

「あの普通ではない、想像も出来ない異常事態の中、主人を戦争にとられ、多数の子どもを連れて避難する間に略奪に合い、又、病気（主に発疹チフス）にかかって、無事日本に帰れないと思った北満開拓団の母たちは途中で死なすよりはと中国人に預けてかろうじて日本に引き揚げて来たのです。夢にまで見た内地に帰ってみれば、いずこも焼け野が原、食うや食わずの生活を強いられたのです。内地では、戦争孤児たちがガード下などで靴磨き（進駐軍）をして生きてきたのです。たとえ子どもたちを連れ無事帰国出来ても身寄りのない人は忽ち明日から生活に困ったでしょう。

2歳半で父さんの胸にぶら下がり帰国した徹には私から話してやるよりは知るすべもないと思い、ペンを取りました。」（大学ノート一冊に記録として残された私の母 錫子著「満州引揚記」前文より）

（中略）

「終戦！ これで兵隊に行かなくてもよい。ああよかった！敗戦ではあってもわたしたち家族は又一緒になれたのです。私の行動は間違いなかったと、その時はむしろ誇らしさを感じました。

処がそれからが大変、内地の人と違い空襲の怖さこそ知らないものの、敗戦ともなれば、昨日までとは違い、今までこき使っていた満人とは立場は逆転、そこに無警察状態、そこへ最初に進駐してきたソ連の囚人部隊。今日はどここのX

Xさんが、今日はあそのX Xさんがと耳に入ってくるのは強姦の話ばかり。」

（中略）

「そして8月の終わり頃だったか、父さんの手で坂本さん、金井さん、それから私と年寄りの順に丸坊主になりました。私の髪を刈る時、父さんが「いいか、いいんだな」と駄目を押し「貴方の手で刈られるのなら・・・」と答えたことを今でもハッキリ覚えています。

後で聞いた話ですが、父さんは内地から帰り、最悪の場合、私と徹を刺して自決するつもりで神戸のおじいちゃんから小刀を持ち帰ったようです。引揚の時、裏の空き地に埋めてきたようです。そんなこととは露知らず、呑気なものでした。父さんはこの時29歳だったのですね。想像できますか？」

歴史的事実から決して目をそらしてはならない。かえって平和の礎として今生かされている私たちは過ちを二度と繰り返してはならないという叫びを次代を担う人たちと強くしていかねばならない。すなわち、「命の尊厳」を脅かすものには断じて対決していかねばならない。

（2003.1/28-31 沖縄・集団自決場を訪問して）

メキシコ視察報告

2002年9月に発生したメキシコハリケーン「イシドレ」の被災地メキシコカンペチェ州を吉富運営委員が、3/7~12まで視察に行ってきました。もともと養蜂が盛んなこの地域で、被害を受けた養蜂業者の再建を支援しています。この支援活動は、メキシコのクアウトモックさんをパートナーとして、災害救援委員会からの支援金を得て行いました。

ハリケーンから半年後の今でも、民家の壁に残された水のあとや、アスファルトの道路のあちこちに残っているハリケーンでできた50~100cmの穴が見られました。遺跡の入り口がふさがり観光客が入れなくなったところもあります。

支援内容及び対象地域

特に被害の大きかった下記3つの村の中からプロジェクトリーダーを選出し、支援対象1家族に3箱ずつの巣箱を提供しました。



- ・**ベカンチェン村**: 人口約1,200人のうちのほとんど蜂が全滅した家族13家族
- ・**シュクビル村**: 人口約8~900人のうち約50家族が養蜂に従事し、そのうち12家族
- ・**ケツワル村**: 人口約1,400人で約200家族のうち養蜂には22家族が従事し、そのうち11家族を支援

村の人たちの声

それぞれの村で、支援対象家族の方が集まってくれて、全員から感謝の言葉をいただき、懇親会をして下さいました。私たちが神戸の地震から始まった市民活動団体のネットワークで、自分たちが助けてもらった恩返しをする思いで、市民レベルでなにかができることをして助けあい、交流を持っていきたいと話しました。

- ・地球の裏側の日本から支援をしてもらえるなんて大変嬉しい。
- ・量は少なくとも、これから再出発するためのベースになる今回の蜂は、とてもありがたく、価値のあるものだ。
- ・こんなハリケーンでもなければ日本の女の人になどお目にかかれなかった。
- ・どうかこれからも交流を持ち続けたい。
- ・今まで、支援の話はいくつもあったが、実際に実行してくれたのは、あなたたちが初めてだ。
- ・今回支援の枠に入らなかった家族には、もう支援は無理だろうか？
- ・私たちは先祖代々から続くこの蜂蜜作りに誇りを持っている。

パートナーのクアウトモックさんより

それぞれのコミュニティの人たちは、みんな同じようにこういった支援を受けられることを本当に幸せだと思っています。神戸から吉富志津代さんをお迎えすることができて喜んでいきます。滞在中、彼女にもそれが十分伝わったことと思います。この人たちは、神戸の皆さんを友達だと思い、今後も訪問を心待ちにしています。私たちのこのプロジェクトが成功することで、寄付をして下さった方たちに自信が付き、また活

動資金への協力の継続へとつながるよう願っています。と同時に、神戸のNGOの仲間たちや世界中の人々が、こういった事業に、我慢強く継続できるような勇気にもなることでしよう。

カンペチェ州について

ユカタン半島の北東にあるカンペチェ州は、かつてはマヤ文明の中心地として栄え、800以上の遺跡が残り、今では少数民族といわれるマヤ民族の小さな村がたくさんある。その村のいくつかでは3年前にようやく政府に認められて、マヤ語を子どもたちに教える教育が公立の学校で始まったばかりである。その州都カンペチェ市はメキシコ湾に面した静かな港町で、スペインが征服した後もよく海賊に襲われていたため、まち全体を要塞で囲って守ったという歴史がある。今でもその要塞がかなり残っていて、マヤの遺跡と要塞の見学に来る観光客も多い。

注：上記文章はクアウトモックさんと吉富運営委員の報告書を元に事務局で編集しました。

事務局より

当センター発足から1年と3ヶ月が過ぎました。年度総会を5月16日(金)18時30分から神戸YMCAにて開催いたします。会員の皆さまには、詳細を追ってご連絡いたします。

CODEの活動を協議する大切な場です。皆様のご出席を頂き、活発な議論ができればと考えておりますので、ご都合のよろしい方は、是非ご出席いただければ幸いです。

また当センターは、皆様からの会費や寄付などによって運営されております。今年度も継続はもちろん新規の皆様からのご入会をよろしくお願い致します。

これまでの活動記録3/18~4/17

- 2003 3/18 「コープデイズ 芦屋」店内にて中国ウイグル支援募金活動
- 3/21 ワコリアフェスティバル参加
- 3/26 生活復興のためのNPO支援事業最終報告会参加
- 3/27 グローバル社会における日本のあり方シンポジウム参加
- 3/30 「コープこうべ塚口子育てフェスタ」にて中国ウイグル支援募金活動
- 4/4 平成14年度海外青年協力隊壮行会「出発の集い」参加
- 4/9 JICAアガコスタ復興支援室報告会参加

ありがとうございます。

会員・寄付者ご芳名(以下順不同・敬称略)

一般寄付<2003年3月17日~4月26日まで>

めふコープ委員会(以上兵庫県)

2003年4月1日~4月26日までの新規会員

- ・**正会員**: 牧田稔, 芹田健太郎, 島田誠, 村上忠孝, コープこうべ(以上兵庫県)
- ・**賛助会員**: 上條紘昭(長野県), 川島徹(東京都), 山添令子, 上田耕蔵(兵庫県)

編集・発行 CODE(海外災害援助市民センター)

〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10

TEL: 078-578-7744 FAX: 078-576-3693

e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>

郵便振替: 00930-0-330579